

おほけなむ憂世の民に

おほふかなわが立つ松に

墨染の袖

中一ニ

わが身に過ぎたことながら、このつらい世を生きる民の上に覆いかける
ことです。比叡山に住みはじめた私の、この墨染めの衣の袖を。
(百人一首 九五番 前大僧正慈円)